



2/13 (土) 国、市、住民の協働による 道路の環境整備!

「桜でつながろう!!わたあしマ」をテーマに西原地区で桜の植樹祭が開催されました。これは、西原インター付近の国道330号法面部分の改修工事に伴い、ごみの不法投棄が多かったこの道路を桜並木に変えたいという地域からの要望が実現したものです。南部国道事務所が植樹樹およびフェンスを整備し、市は桜の木を提供するなど支援しながら、地域住民が維持管理を行います。

西原二区自治会の棚原春男会長は「この桜をとおりて、自然を育てる楽しみを共有し、活力ある地域づくりに一層取り組んでいきたい」と、思いを語っていました。



1/27 (水) 支え合い、助け合う心で 明るく煮敵な世の中に

法務省主唱の第59回社会を明るくする運動の作文コンテストにおいて、優秀賞に選ばれた内間小学校6年の東江杏樹さんが報告のため、市長を訪れました。東江さんは「男子生徒が友だちを心配してくれたことをきっかけに書きました。これからも相手のことを思い合い、みんなで協力しながら頑張って学校生活を送っていききたい」と、語ったのに対し、市長は「東江さんはまだ若い。その豊かな才能を伸ばして、多くの文学賞を受賞できると思う。これをスタートとして頑張ってください」と、激励しました。



2/1 (月) 文化の継承、創造に努め、地域から愛される美術館に

美術館開館20周年記念式典・祝賀会が市でこホール市民交流室で開催され、市長、市議会議員のほか市文化協会や美術館友の会会員ら関係者が多数出席しました。初代館長の宮城篤正氏は「市内の幼児・児童に心の安らぎと豊かさを与え、更に地域振興に貢献していることは誇りです。ますます地域に根ざす、愛される美術館にしていきたいと思います」と、あいさつしました。

また、開館記念事業として現在「ピカソと20世紀美術の巨匠たち」を開催しています。ピカソの絵画8点を含む作家41人60作品が展示されています。展覧会は3月28日(日)までとなっていますので、ぜひこの機会に20世紀最高のアートの魅力をご堪能ください。



1/23 (土) 健康は第一の財産!

本市と浦添市医師会との共催で、第12回市民公開講座「みんなで受けよう特定健診～受診率ナンバーワンをめざして～」が市でこホール市民交流室で開催されました。特定健診の受診率アップを目指して、基調講演とパネルディスカッションが行われ、来場した多くの市民が健診の重要性や食事と運動による健康管理の実践方法を学ぶことができました。「メタボになりにくい体をつくるヒントをたくさん教えていただき感謝します」「浦添市の現状を知ることができて良かった。講師の話は分かりやすく、実践できそう」などの感想が寄せられました。



1/26 (火) みんなで守る文化財

文化財防火デーのこの日に浦添グスク・ようどれ館において防火訓練が実施され、市消防本部の協力の下、市文化部の職員、うらおそい歴史ガイド友の会会員、そして仲間自治会の皆さん、約30名が参加しました。この防火訓練は、火災等緊急時の文化財保護の即応体制を整えるとともに、文化財愛護思想を普及することが目的です。うらおそい歴史ガイド友の会理事長の仲間孝蔵さんは「各自が文化財の大切さを認識し、火災の恐ろしさを知って、日頃から気をつけなければならない。火災が起きた時の役割分担をしっかりと確認し備えておきたい」と、訓練を振り返りました。



1/27 (水) 人権尊重の大切さや理解を深める

第29回全国中学生人権作文コンテスト沖縄県大会入賞者の伝達表彰が市役所で行われました。県内で13作品が選出され、そのうちの6作品が市内の中学校の生徒によるもので、受賞結果は次のとおりです。

- 優秀賞 新川 風沙(仲西中1年)
- 岡田奈那美(昭和薬科大付属中3年)
- 上江洲まどか()
- 奨励賞 東恩納 結(浦添中3年)
- 熊谷 光(昭和薬科大付属中3年)
- 酒井茉祐子()
- 感謝状 浦添中学校



1/23 (土) 社会教育の視点から考えるまちづくり

「支え合い、学び合い、活力ある地域づくりを目指した社会教育の役割」をテーマに第33回浦添市社会教育研究大会が市男女共同参画推進ハーモニーセンターで行われました。基調講演で早川忠光氏は「家庭、学校、地域連携の中での学びによって支え合いが生まれ、活力ある地域づくりにつながっていく」と、自らの実践を基に話しました。

また、森田弘美氏進行のパネルディスカッションでは、4人のパネリストが参加し、それぞれの活動を通しての楽しさや充実感を熱く語るなど、これからの社会教育活動への方向が示された有意義な大会になりました。